

「都」構想、住民投票について語る山市議  
 団長(右)、聞き手の片方さん(左)＝25日



## 「大阪の共産党です」7回目 山市議団長が語る

# 「都」構想?

日本共産党大阪府委員会は25日夜、インターネットで「大阪の共産党です」をライブ配信しました。

7回目の今回は、新型コロナウイルスの感染拡大のもとで「こんなときに住民投票?」「都」構想? 山中智子大阪市議団長に何でも聞いてみよう」がテーマ。聞き手はJCPサポーターの片方真佐子さんです。

山中氏は、大阪市を廃止し、四つの特別区分に分割する「大阪都」構想は「百害あって一利なし」

と強調。消防や上下水道、都市計画などが府の管轄となり、「半人前の自治体になり分権の流れから真逆。地方自治を破壊する最悪の制度」と述べました。

はコロナの影響を踏まえた経済成長や財政シミュレーションのやり直しもせず「虚偽に近い」と批判。何が何でも住民投票をやるとうするのは「時間がたてば市民に中身がわかり、また否決されたくないという自信のなさの表れだ」と指摘し、「市民による手作りの宣伝があちこちで始まっている。こうした動きが広がれば必ず『都』構想は止められる」と強調。「よりよく変えていくのを合言葉に、今度こそ大阪市のもつ大きな力と権限を市民の命や暮らし、ご商売を守ることに使う新しい大阪のスタートを切りたい」と語りました。

「『都』で生活はよくなるのか」の問いに、権限と基本的税収が府に吸い上げられる一方、ランニングコスト(維持費)が増え、「住民サービスは低下せざるを得ない」と指摘。中之島庁舎に三つの特別区の職員が入り、自治体とはいえない姿になることや、介護保険は「一部事務組合」が担い、住民の声が集まらず届かなくなると述べました。

「大阪都」の協定書案